

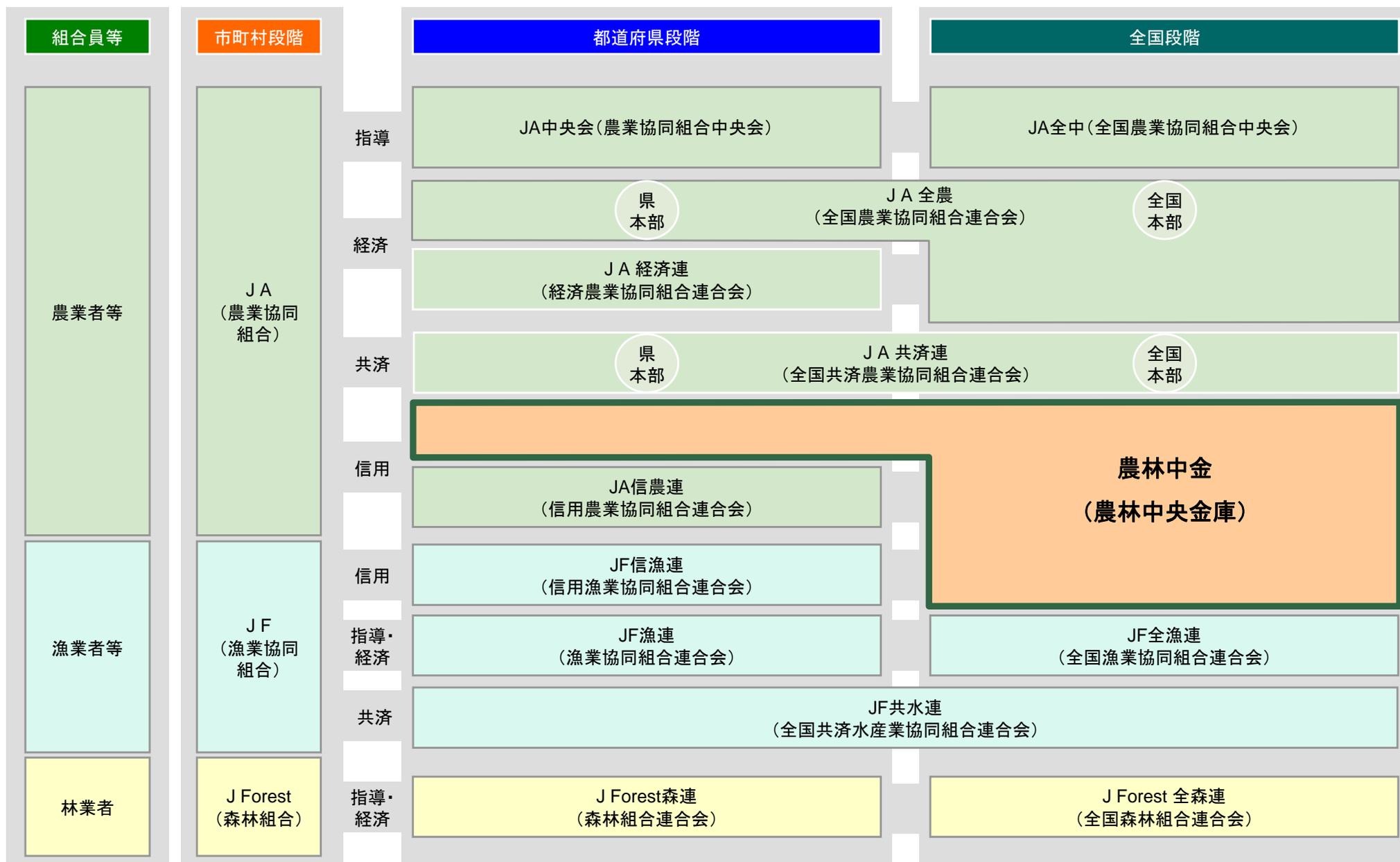
# 農業金融の取組みと農林中金の役割

～「農林水産業と食と地域のくらしを支えるリーディングバンク」を目指して～

平成26年4月2日

**農林中央金庫**

# I 系統組織の概要



## Ⅱ JAバンク全体の役割・課題

持続可能な農業の実現, 豊かで暮らしやすい地域社会の実現に向けて, 金融面から貢献していく

### JAバンク全体の役割

- 農業・地域社会をめぐる大きな構造変化への対応に, 金融面から貢献
- 上記を実現するため, 利用者ニーズに合致した協同組合らしいサービスを継続的に提供

#### 農業・地域社会をめぐる 課題・構造変化

- 世界的な食料不安のたかまり, エネルギー問題
- 少子高齢化による人口減少等による, 中山間地をはじめとする地方の社会・経済基盤の弱体化, 地域経済の疲弊
- 東日本大震災からの復旧・復興

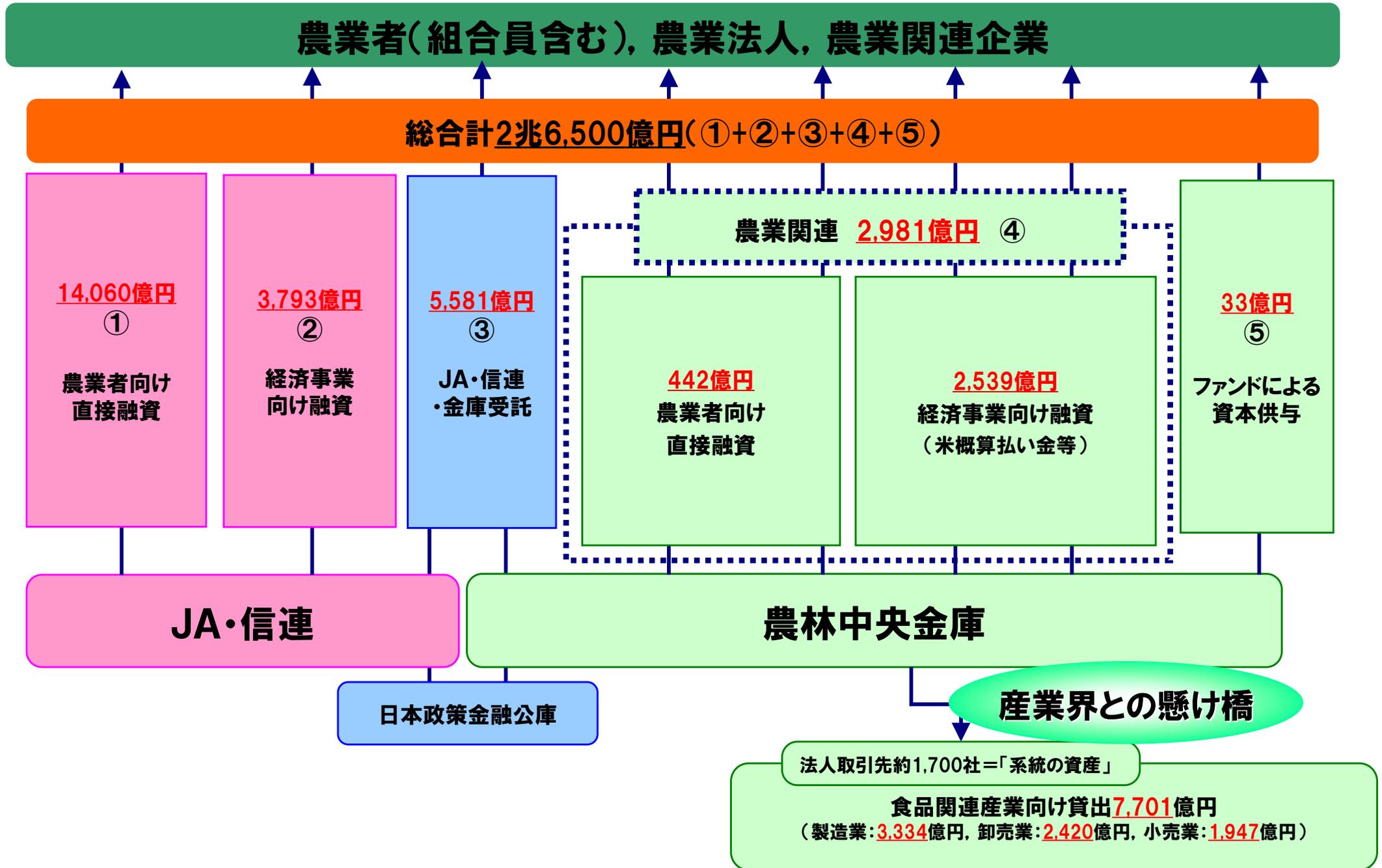
#### JAグループとして認識する具体的課題

- 安全で安心な国産農畜産物を持続的・安定的に供給できる地域農業の支援
- 総合事業を通じて地域のライフラインの一翼を担い, 豊かで暮らしやすい地域社会を実現
- 東日本大震災からの復旧・復興

JAバンクが金融面からサポート

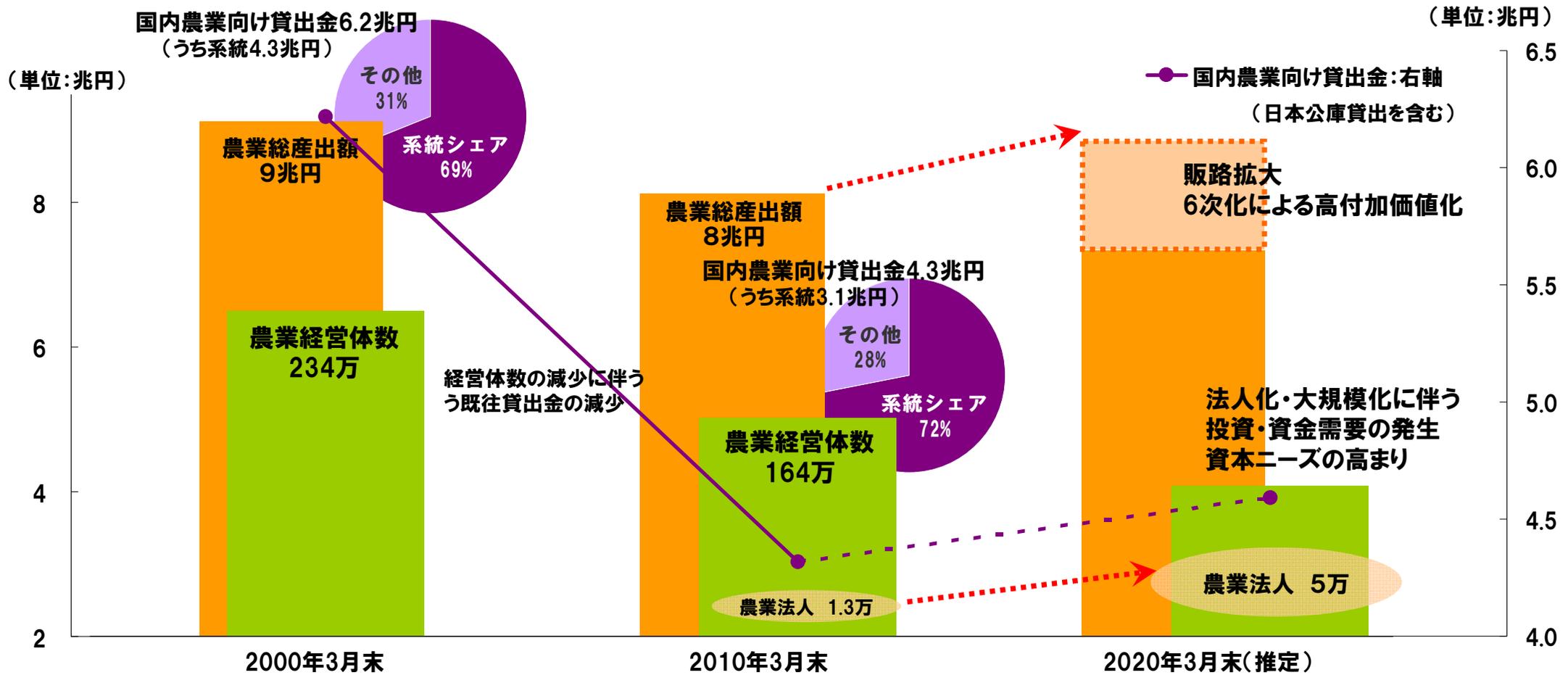
### Ⅲ JAバンクグループの農業金融の状況

(2013年3月末現在)



# IV 農業総産出額・農業経営体数・農業向け貸出金の推移イメージ

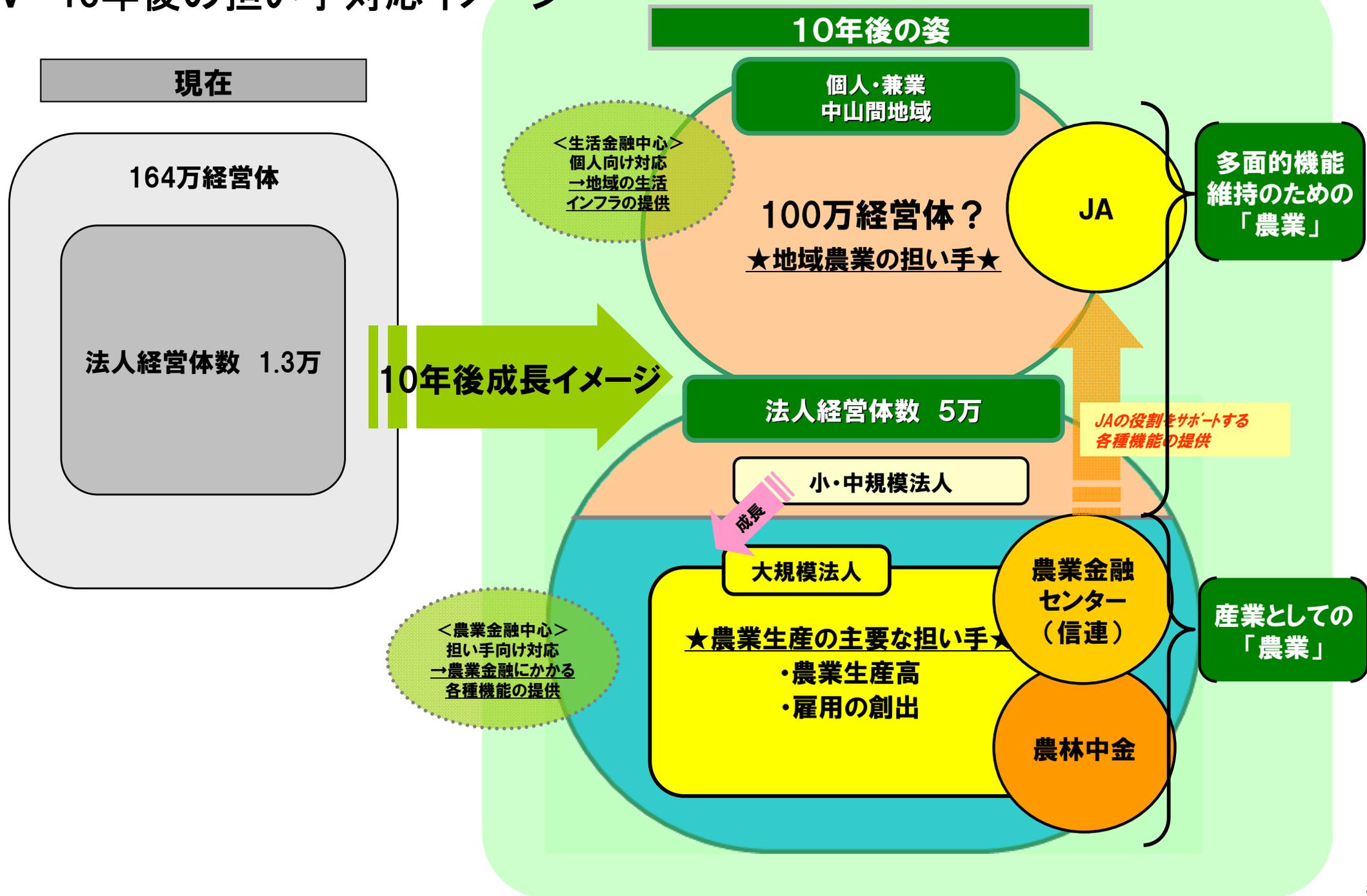
国内の農業向け貸出金は農業総産出額・農業経営体数の減少を背景に長期減少傾向  
 足元、担い手の集約化・法人化の動きに伴って資金需要が発生し、反転の兆しがみられる  
 将来、大規模化の一層の加速、6次産業化等への投資などにより、更に資金需要が発生する可能性がある



(注)2020年の数値は、過去の変化率を延長して農林中金にて推計したもの。

出典:農水省「農林水産統計」、日銀統計「貸出先別貸出金」、日本政策金融公庫「業務統計年報」、農中総研「農林漁業金融統計」・「総研レポート」

# V 10年後の担い手対応イメージ



## VI 農業の成長に向けた対応

農業は成長産業として位置づけられて以降、一般企業も新規参入するなど、新たなビジネスチャンスとして注目を集めている

### 農林水産業・地域の活力創造プラン(骨格)

#### ○生産現場の強化

- (1) 農地集積(全農地の8割を集約)
- (2) 米の生産コスト削減(現状の4割減)
- (3) 法人経営体の増加(5万法人)
- (4) 新規就農支援(40代以下を20⇒40万人)

#### ○需要と供給をつなぐバリューチェーンの構築

- (5) 6次産業化の規模拡大(1⇒10兆円)
- (6) 農山漁村再エネ法(25年臨時国会)(全国100地区)

#### ○需要フロンティアの拡大

- (7) 農林水産物・食品輸出額の伸長(1兆円)

#### ○多面的機能の維持・発揮

- (8) 新たな直接支払制度(26年通常国会)

### JAバンクの問われる対応力

#### ★農業経営の大規模化進展と小規模の2極化

- ⇒JA・連合会の役割分担による対応
- ⇒大規模・小規模経営体の各々のニーズに応じた対応
- ⇒JA出資法人への対応 等

#### ★新たな担い手・企業参入の進展

#### ★農政施策転換に伴う設備等ニーズ増大

#### ★経営管理の効率化・高度化進展

- ⇒ICT活用・コンサルニーズへの対応
- ⇒作業受託・法人等への対応

#### ★6次産業化・再エネの進展

- ⇒6次化ファンド活用等による対応
- ⇒再エネ取組等へのインフラ対応

#### ★輸出促進の強化

- ⇒産業界との連携対応

#### ★地域における系統の真価が問われる

- ⇒系統の地域プロデュース力対応

### 【農業金融取組強化に向けた農林中金の態勢強化】

- ・ 2009 エコ・フードビジネス推進室設置
- ・ 2009 全支店に農林水産環境事業班設置(各拠点に体制を構築)
- ・ 2010 アグリシードファンド(小規模農業法人への資本供与)、アグリシードローン(無担保・無保証貸出)創設
- ・ 2010 農商工連携強化(商談会・セミナーを全国・地域で企画・開催)
- ・ 2012 再生可能エネルギー専担チーム設置
- ・ 2012 6次産業化専担チーム設置
- ・ 2013 JA・6次化ファンド創設
- ・ 2013 担い手経営体応援ファンド(大規模農業法人への資本供与)創設

# VII 農林中央金庫の中期経営計画(2013~2015年度)

100周年(2023年)に向けた将来像

農林水産業と食と地域の暮らしを支える  
リーディングバンク

4つの目指す姿

- 1 農林水産業と地域の持続的な発展に向けて金融ソリューションを提供する農林中央金庫
- 2 絆でつながるネットワーク型金融を構築する農林中央金庫
- 3 農林水産業と食と地域を支えるため国内外の金融市場で存在感を発揮する農林中央金庫
- 4 変化を恐れずに挑戦するプロフェッショナル集団たる農林中央金庫

中期経営計画(2013~2015年度)の位置付け  
→「目指す姿」を決定付ける期間

## 中期経営計画(2013~2015年度)の基本コンセプト

### 1 農林水産業と食の発展や地域の活性化に貢献する新たな取り組みへの率先対応

①地域農業の担い手支援

農業者への収益拡大, 利益還元に向けた取り組み支援  
担い手に対する総合事業体としてのビジネスモデル再構築

②事業力強化への支援

③地域活性化への支援

農業に軸足を置きつつ,  
地域活性化に資する事業を創造

2 系統信用事業の強化・拡大に向けた更なる取り組みの企画・実践

3 適切なリスク管理の下での収益力の強化

4 経営資源の戦略的な活用・増強による組織力の強化

## VIII 農林中央金庫の農業金融の取組み

### 1. 地域農業の担い手支援

#### (1) ローン・ファンドによる資金供給

##### ①JAバンクの農業金融への利子助成

- ・農林中金が利子助成(最大1%)を行い、農業者の金利負担の軽減を図っています。  
(参考) **JAバンク利子助成 平成21~24年度累計 45億円を助成 (対象貸出 26万件・約4,500億円)**

##### ②多様化する地域農業の担い手への資金対応力強化

- ・農業の特性を見極めた**無担保・無保証を原則とする貸出を拡充**します。
- ・長期間にわたる財務内容の安定化、対外信用力の向上を図る**資本(ファンド)の提供**を行っています。  
(参考) **農業法人向け資本提供(ファンド)実績(平成25年9月末) 166件 33億円**

##### ③JAバンクの農業融資担当者の人材育成

- ・現場における農業者の借入ニーズ等への対応力向上に向け、**JA担当者の人材育成の支援**を行っています。  
(参考) **JAバンク農業金融プランナー (農業融資に係るJAバンクの資格制度合格者) 5,162名**

#### (2) 日本農業法人協会との連携強化

- ・全国約1,800社の先駆的な農業法人を擁する日本農業法人協会と**平成26年2月に包括的なパートナーシップ協定を締結**しました。
- ・協定締結を機に、農業法人が抱える様々な経営課題を把握し解決策を検討すべく協会内に「経営支援プロジェクトチーム」が発足。同プロジェクトチームリーダーとして**農林中金の職員を派遣**を行うなど、農業法人の発展を支えるべく協会との連携を強化しています。

#### (3) 次世代の農業経営者の育成支援

##### ①日本農業経営大学校の運営支援

- ・地域の核となる農業経営者の育成も将来の農業の成長に向けての課題のひとつ、との認識の下、農林中金がメインスポンサーとなり、**国内のさまざまな企業230社からの賛同を得て、平成25年4月に「日本農業経営大学校」を開設**しました。

##### ②新規就農希望者(研修生)の受入れへの支援

- ・将来の担い手育成のため、新規就農希望者(研修生)を受け入れる農家等に対し助成を行っています。

## VIII 農林中央金庫の農業金融の取組み

### 2. 事業力強化への支援

#### (1) 産業界との連携

- ・平成25年8月に、JA全農・みずほ銀行・農林中金の三者で「食と農の競争力強化に向けた研究会」を立ち上げ、農畜産物の新たなバリューチェーンを構築し、農業生産者の収益力強化を図っていくこととしています。
- ・産業界と農林水産業の架け橋として、農林中金の法人営業お取引先（食品産業をはじめ約1,700社）と農林水産業・JA等とのビジネスマッチング、農商工連携等を支援しています。

（参考） **平成25年度(26/2末まで)のビジネスマッチング成約件数 103件**

#### (2) 6次産業化

- ・JA・JF・JForestグループは(株)農林漁業成長産業化支援機構と連携し、総額100億円の6次化ファンドを設立し、農林漁業者の6次産業化を支援しています。

（参考） **平成25年度の投資実績 3件・105百万円（全国41サブファンドの投資総件数 13件のうち最多）**

#### (3) 商談会の開催等による販売力強化

- ・セラー（生産者）のニーズにお応えし、JAグループのネットワークを活かした個別ビジネスマッチング、全国商談会・地域商談会等の開催、海外商談会への出展における全面的なサポート等を行っています。

（参考） **平成25年度の地域商談会開催件数 11件**

## VIII 農林中央金庫の農業金融の取組み

### 3. 地域活性化への支援

#### (1) 再生可能エネルギー

- ・農山漁村の資源の有効活用, 地域経済の活性化, 雇用の確保等, 循環型社会の構築に資する再生可能エネルギー事業の立上げをサポートしています。
- ・また, かかる取組みを一層強化すべく, JA共済連と連携して, ファンド(当初10億円)を創設いたします。  
(参考) **平成25年度 再エネ事業体への出資実績 1件 30百万円(木質バイオマス発電)**

#### (2) 食農教育

- ・小学校高学年向けの食農教育の教材本の贈呈や, JAが行う食農教育等の活動への費用助成を行っています。  
(参考) **平成24年度 教材本贈呈実績 全国約2万校, 約140万冊**  
**平成24年度 食農教育活動への費用助成実績 約2,100件**

#### (3) 農林水産業と食と地域の暮らしへの貢献

- ・農林水産業者自らの独創的な取組みに対し, 農林中金が直接支援する枠組みとして, 「**一般社団法人農林水産業みらい基金**」を平成26年3月に設立しました(**200億円の基金を拠出**)。
- ・同基金を通じて, 農林水産業の持続的発展を支える担い手への直接支援を行っていきます。

## Ⅸ 復興に向けた取組み

### 震災復興に向けた取組み

復興支援プログラム (期間4年程度, 支援額300億円)	内 容	対 象 者
	金融支援プログラム	農林水産業者等
	事業・経営支援プログラム	会員組織

#### (1) 生産者・地域への復興支援

##### <金融支援>

- ・復興ローンによる長期低利資金の供給, 復興ファンドによる資本供与, 農機等のリース料助成, 災害資金への利子補給  
(参考) **平成25年9月末累計 復興ローン融資残高 202億円, 復興ファンド投資実績 3億円**  
**リース料助成件数 428件 (リース料総額18億円)**

##### <非金融支援>

- ・稲作生産資材への費用助成, 魚箱・スカイタンクの寄贈, ワカメ・コンブ共販用ダンボールケースの費用助成

#### (2) 会員・利用者への復興支援

##### <会員の事業復旧・復興>

- ・被災JA・JFに対する指導・助言, 職員派遣, 信用事業強化計画に基づく経営再建と地域復興への取組支援

##### <被災利用者への金融サービス提供>

- ・被災利用者支援センターの継続運営
- ・被災利用者の生活再建に向けた取組 (復興応援ローンの取組み, 二重債務問題・防災集団移転促進事業への対応)